

# 第1学年 国語科学習指導案

日時 平成25年11月26日(火) 4校時  
対象 男12名 女10名 計22名  
指導者 村木 弘子

- 1 単元名 本はともだち(光村図書 下)  
主教材 「ずっと、ずっと、大好きだよ」(物語文)

## 2 単元について

### (1) 児童について

児童は、「おおきなかぶ」や「くじらぐも」で、物語の筋の展開をとらえたり、動作化・音読を通して、登場人物の行動や場面の様子を想像したりする学習に取り組んできた。

本単元では、友達に本を紹介するカードを書くという、本の紹介活動を位置づけている。カードを見て交流することで、児童が読書の楽しさを実感することを期待したい。

音読の体験は、1学期からいろいろなやり方で取り組んできた。「うたにあわせてあいうえお」など導入場面では、文章のリズムを考えながら音読をしてきた。「くじらぐも」では、場面の様子を想像し、その様子が表れるように声に出して読ませてきた。しかし、声の大きさの調節ができない子やすらすら読めない子がおり、練習が必要である。

1学期は、話の聞き方や姿勢、発表のルールを中心に指導してきた。「手を挙げて発言する。」ことは定着してきたが、話を聞いていない児童もおり、すぐに活動に取り組めないことも多い。

読書には興味をもって取り組む子も多く、読み聞かせは熱心に聴いている。男子は、迷路や図鑑・キャラクターの本を借りて読む子が多い。読書タイムも友達と一緒に迷路や図鑑を楽しみながら読むことが多く、じっくり読書に浸りきれない。また、難しい本を借りてきて読めないと家庭から連絡がある子もいる。

本単元では、知らせたい本を選び、紹介するカードを作って交流することで、易しい読み物に興味をもち、自分で好きな作品を選んで読むようにさせたい。自分の好きな本を積極的に紹介し合うことは、読書意欲の喚起に結び付く。児童が楽しめそうないろいろな本に触れることのできる場を設定し、並行読書を勧め読書生活の幅が広がるようにしたい。

### (2) 教材について

小学校学習指導要領国語科第1学年及び第2学年の「読むこと」における目標は、「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。」である。

また、(2)内容 ①指導事項には、主たる目標として「オ 書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合うこと。」、主目標に準じる内容として「ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある分や文章を書くこと。」、「ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。」、「オ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。」とある。

この作品には、人間にとって身近な動物である犬と少年との心の交流が描かれている。少年「ぼく」は、愛犬エルフをその死に至るまで親友として愛し、慈しみ続ける。児童は、主人公「ぼく」の心優しさにひかれ、柔らかなタッチの美しい挿絵を手がかりに、興味をもって作品を読み進めていくであろう。想像豊かに読み取らせ、読書の楽しさに気づかせたい。

### (3) つけたい力と読みの方法

【つけたい力】

#### 単元を貫く言語活動

#### 読んだ本について、好きなところを紹介する言語活動

【場面の様子について登場人物の行動を中心に、想像を広げながら読むこと】

【文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。】

【語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。】

【書いたものを読み合い、よいところを見つけて感想を伝え合うこと。】

- 設定をとらえる。(登場人物、主人公、時、場所)  
出来事を順番にとらえる。  
挿絵、時、場所、登場人物などを手がかりに場面を分ける。  
あらすじをおさえる。
- 時間の順序、場面の移り変わりに気をつけて、場面ごとの様子を想像する。  
挿絵などを手がかりに想像する。  
登場人物の行動や会話を基に想像する。  
登場人物の気持ちになりきって想像する。

本教材は、**読んだ本について、好きなところを紹介すること**を単元のゴールとしている。

そのために、「見通す」段階では、「ずうっと、ずっと、大すきだよ」を基に、心に残った言葉や文を紹介する活動を生かして、後半では自分が読んだ本について好きなところを紹介する活動を行うことを知らせ、学習計画を立てていく。

「深める」段階では、**自分の経験と結び付けながら読み進め、「ぼく」に言ってあげたいことを友達と交流する。**

そして、「まとめる」段階では、「ずうっと、ずっと、大すきだよ」を基に、心に残る好きな言葉や文等を伝えるカードを書く練習をする。

「広める」段階では、**友達に知らせたい本を選び、紹介するカードを作って交流すること**で、易しい読み物に興味をもち、自分で好きな作品を選んで読むようにさせたい。自分の好きな本を積極的に紹介し合うことは、読書意欲の喚起に結び付く。「紹介する内容は、低学年では、好きなところが中心となる。「一人で読める」、「面白くてたまらない」などといった紹介のための言葉を活用しやすいように語彙表を配布したり、実際の本の紹介文、本の帯などの実物をモデルとして示したりして、そこから紹介文の要素を見付け出させるなど自らの気づきを大切に学習が進められるようにすることが求められる。(解説書 P43)」

児童が楽しめそうないろいろな本に触れることのできる場を設定し、並行読書を勧め読書生活の幅が広がるようにしたい。

### 3 単元の目標と評価規準

	単元の目標	評価規準
国語への 関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 想像を広げながら本を読むことの楽しさに気づき、読書をしようとする。</li> <li>○ 自分の考えを話したり、相手の考えを聞き入れたりしながら、好きな本を紹介しようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本を読むことの楽しさに気づき、読書をしようとしている。</li> <li>・ 本を紹介し合うことを楽しもうとしている。</li> </ul>
読む能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に、想像を広げながら読むことができる。</li> <li>○ お話と自分の経験とを結び付けて読むことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 登場人物のつながりに気をつけて、物語を読んでいる。(1)ウ</li> <li>・ 登場人物の行動についての共感・反発・疑問をまとめて表している。(1)オ</li> </ul>
書く能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 紹介活動において、心に残る話の概略や、心に残った箇所、感想等をカードに書くことができる。</li> <li>◎ 文と文とのつながりに気を付けて、紹介したい本のカードを書いたり、書いたカードを読み合って楽しんだりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 物語の内容(だれが、どうした)や好きなところをカードに書いている。(1)ウ</li> <li>・ カードを読み合い、読んでみたい本を考える。(1)オ</li> </ul>
言語についての 知識・理解・技能	○ 主語と述語を言える。	・ 本を紹介するときに必要な言葉を理解している。(1)イ (ア)

### 4 単元の指導計画と具体的評価規準 (9時間扱い)

段階	時	学習活動	国語への関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
見通	1	・「おはなしれっしゃ」をつくるという見通しをもって、「ずうっ	・教師の作ったお話列車			

す		と、ずっと。だいすきだよ」を読んでいく。 ・教師のおすすめの本の紹介を聞き、自分のおすすめしたい本について考える。 ・絵本の挿絵を見て、物語の大体をつかむ。 ・よかったところ、好きなところを見つけながら教師の読み聞かせを聞く。心に残った所や好きな所を発表し合う。	をみて、お話を列車を作るという見通しをもつ。 ・本の紹介活動に興味をもって取り組もうとする。【発言】	・好きな本を見つけておくといよいことを伝える。	・物語の大体の内容をつかみ、心に残ったところを発表している。【発言・ワークシート】	
深める	2 3 4 5 本時	・エルフが元気なときの様子と「ぼく」の気持ちを読み取る。 ・エルフが年をとってから死ぬまでの様子とその時々「ぼく」の気持ちを話し合う。 ・「ぼく」に言ってあげたいことを友達と交流する。			・登場人物のつながりに気をつけて、物語を読んでいる。【発言・ノート】 ・登場人物の行動についての共感・反発・疑問を表明している。【発言・ワークシート】	
まとめる	6 7	・紹介カードの作り方を知る。 ・「ずうっと、ずっと、大すきだよ」を基に、紹介文を紹介カードに書く。		・物語の内容(だれが、どうした)や好きなところを書いている。【紹介カード】		・本を紹介するときに必要な言葉を理解している。【紹介カード】
広める	8 9	・「わたしのおすすめの本」を友達に知らせる紹介カードを書く。 ・友達の紹介した本の感想を返したり、その本を探して読んだりする。	・本を紹介し合うことを楽しもうとしている。【観察】	・物語の内容(誰が、どうした)や好きなところを読み合い、読んでみたい本を考えている。【観察・読書計画】		

## 5 本時の指導

### (1) 目標

エルフの様子と、「ぼく」のしたことや思いを読み取るとともに、「ぼく」に言ってあげたい言葉を考える。

### (2) 評価の観点と具体的評価規準

観点・具体的評価規準	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 支援を要する児童への手立て
読む能力	エルフを失った「ぼく」の気持ちを想像して「ぼく」にかける言葉を考えたりしている。【発言・ワークシート】 (例)「私も長い間飼っていた動物が死んだ時、すごく悲しかった。だから、悲しい気持ちがよくわかるよ。」	エルフを失った「ぼく」の気持ちを想像して「ぼく」にかける言葉を考えたりしている。【発言・ワークシート】 例「エルフが大すきだったんだね。」…	自分なるほど思った友達の考えをワークシートに書き加えるようにさせる。

(3) 展開

段階	学 習 活 動 ○発問 ・期待する児童の反応 【言語活動】	教師の関わり方 ・留意事項 ◎評価
見通す 5分	1 前時までの学習を想起する。 2 本時の課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">             大すきなエルフをなくしてしまった「ぼく」に、              言ってあげたいことばをかんがえよう。           </div> 3 読みの観点を確認する。 ・ぼくの気持ちを考える。	・掲示物を活用する。  ・「ぼく」の気持ちを考えながら読ませる。
深 め る  35分	4 課題を解決する。 (1) 学習場面を音読する。P52～55【指名読み】  (2) となりの子が子犬をくれるといたのに、いらないといた「ぼく」の気持ちを考える。 ○ となりの子が子犬をくれるといたのに、いらないとっています。なぜでしょう。 【叙述から気持ちを想像する(発言)】  ・ ぼくの犬はエルフだけだからいらないと言った。 ・ 大すきなエルフの代わりに犬は、もういない。 ・ エルフのことを忘れられない。  (3) 大好きなエルフをなくしてしまった「ぼく」に、言ってあげたい言葉を考えて交流する。 ○ 大好きなエルフをなくしてしまった「ぼく」の気持ちを考えて、「ぼく」に何か言ってあげましょう。その言葉をワークシートに書いて発表しましょう。 【ワークシート・ペア、全体発表】  ・ 私も飼っていた犬が死んだとき、すごく悲しかった。だから、気持ちがよくわかるよ。 ・ 毎晩「ずうっと、ずっと、大すきだよ」って言っていたことを、きっとエルフはわかっていたよ。 ・ きっと天国でエルフが見守ってくれているから、元気出して。 ・ エルフは天国にいて、「ぼく」を応援していると思うよ。 ・ かわいそうだね。わたしにできることがあったら、手伝ってあげるよ。	・音読する際は、姿勢や口形、声の大きさなどに気を付けさせる。  ◎自分の経験と結びつけて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合う。 【発言】  ◎登場人物の行動についての共感・反発・疑問を表明している。【ワークシート・発言】 ・自分と同じことや、聞いてみたいこと、自分だったらこうするという事など。 ・考えを書けない児童についての支援を行う。
ま と め る 5 分	5 本時の学習を振り返り、学習のまとめをする。 ・ 大好きなエルフをなくした、「ぼく」に語りかける言葉 を考えることができたか。 6 次時の学習の見通しをもつ。	・観点にそって考えることができたか。 【発言・挙手】 ・本の紹介カードを作ることを知らせる。

(4) 板書計画

本はともだち（よむ）  
「ずうっと、ずっと、大すきだよ」 ハンスⅡウイルヘルムさく・え

ひさやま たいち やく

めあて

大すきなエルフをなくしてしまった「ぼく」に、  
いつてあげたいことをかんがえよう。

◎ となりの子が子犬をくれると聞いたのに、いらないうっていま  
す。なぜでしょう。



- ぼくの犬はエルフだけだから知らない。
- 大すきなエルフのかわりの犬は、もういない。
- エルフのことをわすれられない。
- エルフはこころの中にいるから知らない。

◎ 大すきなエルフをなくしてしまったぼくにこえをかけよう。



- 私もかっていた犬がしんだとき、すごくかなしかった。
- まいばん「ずうっと、ずっと、大すきだよ」って言うていたことを、きくとエルフはわかっていたよ。
- きつと天国でエルフが見まもってくれているから、げんき出して。
- エルフはてんごくにいて、「ぼく」をおうえんしているとおもうよ。
- かわいそうだね。わたしにできることがあったら、てつだってあげるね。